

参入市町村名	岩手県陸前高田市、遠野市	
法人等名（業態名）	有限会社 満福農園(まんぶくのうえん)	
参入の種別	特定法人貸付事業 遠野市（平成 18 年 4 月） 農業生産法人 陸前高田市（平成 25 年 1 月）	
農業部門の概要	栽培作物	自根きゅうり、トマト、苺、じゃが芋、玉葱、長葱、南瓜、白菜、キャベツ、茄子、ほうれん草 等
	経営規模	農地 150a、ハウス 25 m ² ×5 棟
	雇用者数	4 名 ほかにパート数名、不定期でボランティア、インターンシップ（学生）、研修生など
地域の概要	<p>【地域の農業の特徴】</p> <p>[陸前高田市]米崎林檎は震災後注目されている主要農産物。ヤーコンやシイタケ、その他沿岸の野菜→「浜野菜」としてのブランド化など、県外から新規参入した若者も加わりこれからが正念場。</p> <p>[遠野市]米を中心に、野菜、ホップ、葉たばこなどの工芸作物、畜産の複合経営が行われている。</p> <p>自治体としての農業への取り組み等]</p> <p>[陸前高田市] 東日本大震災により多くの土地が被災、更に被災を免れた土地も転用されるなど（震災前の 6～7 倍）しており、農地パトロール等を進めながら遊休農地の解消を進め、農地の確保につとめている。震災後はいち早く除塩を行い、被災地を利用した栽培技術の推進など指導体制を強化しつつある。</p> <p>[遠野市] 日本ふるさと再生特区」として平成 15 年 11 月に構造改革特区の承認を受け、「ぬくもりと民てなし」の心でつくる遠野ツーリズム」の推進を図ってきた。あわせて、「おもしろさ」と「やる気」を感じる新たな企業の促進を図り、これまでに、濁酒 びぶろくの製造や農家民宿の展開、特定法人の農業参入などが進んでいる。</p>	
参入の動機、きっかけ、参入の経過など	<p>・過疎地の自動車学校では、教習事業だけでは経営できなくなることは明らかと考え、余裕があるうちに、将来本業となる事業を副業として立ち上げる必要性を感じた。</p> <p>・農業に着目したのは、将来的な食糧難の時代到来の予測や、作物を育てることは社員の教育の一環になり、合宿などで来校する生徒に農業を体験してもらうことは子供達の将来に良い意味で大きな影響を与えることが出来ると思ったから。</p>	
農業経営（農業事業）の内容	<p>・邂逅に喜びを！！」を経営理念に事業展開。</p> <p>・「日本古来の伝統でもある、農業という文化を守り、後世に継承していく」ことをコンセプトに、浸水農地の活用、地域雇用の創出、遠野産のトマトを使用したジュース加工、苺の水耕栽培開始、震災前から作付していた「自根きゅうり」の栽培再開など、農地を拡大し多様な野菜の栽培を計画中。弊社は「安全」をキーワードにできるだけ農業を使わず、土づくりにこだわった製法で展開していく。</p>	
農産物の販売状況	野菜、加工品とも気仙地区が中心だが、ネットや卸販売など販路を広げており、H26 年度より HP 上でも販売を開始する。H24 年より新商品の企画・試験販売を数種類行い、地域のイベント等にも積極的に出店している。	
農業参入にあたって苦労したこと	農地の確保、加工品の規格、野菜の栽培・販売のノウハウ	

<p>現在の課題、問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の専属スタッフを雇い平成 24 年度に独立したが、設備投資の回収が課題。農地は拡張できたものの、それに伴う人員配置や作業の流れなど、やってみなければわからない点が多い。 ・国の施策にどんなものがあるかわからなかったこと。
<p>農業参入で良かったと思う点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物の需要は想像以上に多く、やり方と方向さえ間違えなければ、これからも生産と販売数量をもっと伸ばすことができ、利益もしっかり上げることができると思う。 ・全国的に初めてのグリーンツーリズム型の自動車学校を実施することができ、社員や生徒をはじめとするあらゆる意味での教育が、より以上にできるような気がするから。 ・農薬を使わず栽培した遠野産のトマトのジュース（クレティカ・イエローアイコ・アイコ）は大好評であり、無添加の商品は今後も需要が高いと感じた。 ・希少価値が高く栽培方法が難しい「自根きゅうり」の反応も上々であり、陸前高田農場のメイン商品にしていきたい。
<p>今後の展開方向、行政や関係機関に望むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・復興計画の進捗状況なども注視し、地元内外企業との様々なコラボレーションを行い、新商品を企画、野菜の安定した販売ルートを確立させる。 ・将来的に食料難の時代が来ると言われているが、行政は、対処療法しか行っていないのが実態であろう。農作物等の自給率を高める必要性を感じている。 ・若者が農業に興味をもち、新規参入しやすい仕組みを策定してほしい。

H18 当時は 株式会社「高田自動車学校」の農業部門としてスタートしていたが、震災後に「有限会社「満福農園」として独立したそうです。